



## 日産化学株式会社

2026年3月期 決算説明会

説明者

取締役副社長 CFO 大門 秀樹

2026年5月15日

大門：日産化学の大門でございます。本日はご多忙のところご参加いただき、誠にありがとうございます。では説明を始めます。

## 2025年度通期決算サマリー



下期	前年同期比	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 売上高は163億円増収(+12%)</li><li>■ 営業利益は55億円増益(+19%)</li><li>■ 純利益は44億円増益(+19%)</li></ul>
通期	前年同期比	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 売上高は282億円増収(+11%)</li><li>■ 営業利益は68億円増益(+12%)</li><li>■ 純利益は67億円増益(+15%)</li><li>■ <b>営業利益、経常利益、純利益で過去最高益を更新</b></li><li>■ ROEは20.3%(+1.6pt)</li></ul>
通期	業績予想比 (2025年11月発表予想との比較)	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 売上高は74億円上ぶれ</li><li>■ 営業利益は46億円上ぶれ</li><li>■ 純利益は57億円上ぶれ</li></ul>
株主還元		<ul style="list-style-type: none"><li>■ 通期配当 202円(前年比28円増配、2025年度期初予想比26円上ぶれ)</li><li>■ 自己株式取得 105億円完了(2.2百万株)</li><li>■ 配当性向 54.9%(中計目標55%)、総還元性向 75.7%(同75%)</li></ul>

| 4

25年度通期の決算サマリーとして、上から四つ箱が並んでおりますが、一番上は下期の前年同期比で、営業利益55億円の増益、プラス19%となっております。

通期でございますが、売上高は282億円増収、プラス11%、営業利益は前年同期比で68億円の増益、プラス12%、純利益は67億円の増益、プラス15%で二桁増益となりました。この結果、24年度に続きまして営業利益、経常利益、純利益で過去最高益を更新しました。またROEも初の20%超えの20.3%で着地しております。

また去年の11月発表の業績予想と比較すると、営業利益は46億円の上ぶれとなりました。この結果、一番下の株主還元は、通期配当は前年比28円増配の202円といたしました。また去年の5月に発表いたしました期初予想比では、26円の上ぶれとなります。自己株は220万株、105億円取得済みですので、配当性向は中計目標55%をほぼ達成、総還元性向も中計目標である75%以上の、75.7%となります。

## 2025年度通期決算サマリー 前年同期比



(億円)

	2024年度 実績					2025年度 実績					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	1,182	566	766	1,332	2,514	1,301	653	842	1,495	2,796	+119 (+10%)	+87 (+15%)	+76 (+10%)	+163 (+12%)	+282 (+11%)
営業利益	283	128	157	285	568	296	154	186	340	636	+13 (+4%)	+26 (+21%)	+29 (+18%)	+55 (+19%)	+68 (+12%)
営業外損益	-4	26	-10	16	12	2	13	8	21	23	+6	-13	+18	+5	+11
為替差損益	-8	18	-12	6	-2	-4	9	1	10	6	+4	-9	+13	+4	+8
経常利益	279	154	147	301	580	298	167	194	361	659	+19 (+7%)	+13 (+9%)	+47 (+32%)	+60 (+20%)	+79 (+14%)
特別損益	8	0	7	7	15	0	0	0	0	0	-8	0	-7	-7	-15
純利益 <sup>※1</sup>	205	112	113	225	430	228	122	147	269	497	+23 (+11%)	+10 (+9%)	+34 (+29%)	+44 (+19%)	+67 (+15%)
EBITDA <sup>※2</sup>	345	167	200	367	712	366	195	230	425	791	+21	+28	+30	+58	+79 (+11%)
EPS(円/株)	148.78	81.49	82.99	164.48	313.26	168.45	90.65	109.16	199.81	368.26	+19.67	+9.16	+26.17	+35.33	+55.00 (+18%)
配当(円/株)	70	-	-	104	174	70	-	-	132	202	0	-	-	+28	+28
配当性向(%)	-	-	-	-	55.5%	-	-	-	-	54.9%	-	-	-	-	-0.6pt
配当総額	96	-	-	142	238	94	-	-	178	272	-2	-	-	+36	+34
売上高営業利益率	24.0%	22.5%	20.6%	21.4%	22.6%	22.8%	23.5%	22.1%	22.7%	22.7%	-1.2pt	+1.0pt	+1.5pt	+1.3pt	+0.1pt
ROE	-	-	-	-	18.7%	-	-	-	-	20.3%	-	-	-	-	+1.6pt
為替レート(円/%)	153	152	153	152	153	146	154	157	155	151	-	-	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

| 5

具体的な数字は5ページにございます。25年度実績年間でございますが、売上高は2,796億円、営業利益は636億円、経常利益は659億円、純利益は497億円となりました。下から3行目に売上高営業利益率がございますが、22.7%で、24年度と比べますと微増でございます。為替レートにつきましてはドル円で通期151円となりましたので、1年前と比べますと2円程度円高でございますが、下期で見ますと155円で、1年前の下期と比べると3円程度ドル高という着地でございます。

この結果、一番右の年間前年同期比は、営業利益プラス12%、純利益プラス15%、またEPSもプラス18%で二桁の増加となっております。

## 2025年度通期決算サマリー 業績予想比

(億円)

	2025年度 予想 (2025年11月発表)			2025年度 実績			業績予想比
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	下期・年間
売上高	1,301	1,421	2,722	1,301	1,495	2,796	+74
営業利益	296	294	590	296	340	636	+46
営業外損益	2	-2	0	2	21	23	+23
為替差損益	-4	-16	-20	-4	10	6	+26
経常利益	298	292	590	298	361	659	+69
特別損益	0	0	0	0	0	0	0
純利益 <sup>※1</sup>	228	212	440	228	269	497	+57
EBITDA <sup>※2</sup>	366	383	749	366	425	791	+42
EPS(円/株)	168.45	159.77	328.22	168.45	199.81	368.26	+40.04
配当(円/株)	70	110	180	70	132	202	+22
配当性向(%)	-	-	54.8%	-	-	54.9%	+0.1pt
配当総額	94	148	242	94	178	272	+30
売上高営業利益率	22.8%	20.7%	21.7%	22.8%	22.7%	22.7%	-
ROE	-	-	18.5%	-	-	20.3%	+1.8pt
為替レート(円/ドル)	146	145	146	146	155	151	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

| 6

6 ページは、去年 11 月発表の業績予想との比較ですが、数字は今、申し上げたとおりです。為替レートは、当初下期の 6 カ月はドル円で 145 円と置いておりましたが、結果的には 155 円で、10 円程度ドル高となっております。

## 2025年度通期決算サマリー 営業利益の増減分析

	2025年度 実績	2024年度 実績	前年同期比	業績予想(2025年11月発表)	業績予想比
	<b>340</b> 億円	<b>285</b> 億円	<b>+55</b> 億円(+19%)	<b>294</b> 億円	<b>+46</b> 億円
下期	機能性材料	前年同期比 +31億円	半導体増収により増益	業績予想比 32億円上ぶれ	半導体上ぶれにより利益上ぶれ
	農業化学品	前年同期比 +25億円	フルララネル・グレーシア・ライメイ・ベルダー増収により増益	業績予想比 予想通り	
	化学品	前年同期比 +5億円	ファインケミカル・基礎化学品増収により増益	業績予想比 3億円上ぶれ	ファインケミカル上ぶれにより利益上ぶれ
	ヘルスケア	前年同期比 +1億円	ファインテック下ぶれにより利益下ぶれ	業績予想比 1億円下ぶれ	ファインテック下ぶれにより利益下ぶれ
	<b>636</b> 億円	<b>568</b> 億円	<b>+68</b> 億円(+12%)		
通期	機能性材料	前年同期比 +60億円	半導体・無機増収により増益(+20%)		
	農業化学品	前年同期比 +1億円	ライメイ・アルテア・ベルダー・フルララネル増収も、固定費等 <sup>※1</sup> 増加により、利益ほぼ横ばい		
	化学品	前年同期比 +7億円	ファインケミカル・基礎化学品増収、24年度計上のファインケミカル減損に伴う固定費等減少により増益		
	ヘルスケア	前年同期比 -5億円	ファインテック減収により減益		

※1 固定費等には在庫変動影響を含む

| 7

営業利益のセグメントごとのサマリーです。上の下期という箱でございますけども、上から見ていただきますと、機能性材料は半導体等を中心に増益ないしは上ぶれでございました。

農業化学品も前年同期比でいきますとプラス 25 億円と、上期の YoY がマイナス 24 億円でしたが、下期にはカバーをして、業績予想比としては予想通りという着地でございました。フルララネル、グレーシア、ライメイ、ベルダーの増収が寄与をしております。

化学品は、前年同期比、予想比とも増益ないしは上ぶれでございました。ファインケミカルあるいは基礎化学品の増収が結果的に奏功しております。

最後にヘルスケアは、前年同期比、予想比とも若干の上ないしは下ぶれでございました。

通期でございますが、先ほど申し上げました 68 億円増益の中身で、機能性材料、前年同期比でプラス 60 億円と、かなり大きく増益しております。特に半導体また無機も増収で、増益率としては 20%の増益でございました。

農業化学品は、前年同期比プラス 1 億円と、各主要製品とも増収ではありますが、固定費等の増加があり、利益としてはほぼ横ばいでございました。

化学品はプラス7億円。ここには売上増に加えまして、24年度計上のファインケミカル減損に伴う固定費等の減少が増益に寄与をしております。

ヘルスケアはファインテック減収による減益ということでございました。

## 2026年度通期 業績予想サマリー



### 2026年度通期業績予想

※中東情勢による直接的な影響は限定的  
今後市場全体のサプライチェーンへの影響等を注視

上期	前年同期比
通期	前年同期比

- 売上高は14億円増収(+1%)
  - 営業利益は9億円減益(-3%)
  - 純利益は4億円減益(-2%)
- 
- 売上高は101億円増収(+4%)
  - 営業利益は32億円増益(+5%)
  - 純利益は18億円増益(+4%)
  - ROE予想は19.6%

### 株主還元予想

- 中計目標に基づき、総還元性向目標は75%、配当性向目標は55%
- 自己株式取得は105億円を予定(2026年5月~2027年3月に取得予定)

配当	通期212円(中間70円、期末142円)、配当性向54.8% ※前年比: 10円増配
自己株式取得	105億円(2026年5月15日発表分、2026年5年~2027年3月取得) ※2025年度実績 105億円、2.2百万株
総還元性向予想	75.0%(配当212円と自己株式取得105億円に基づき計算)

| 9

26年度の業績予想でございます。冒頭に太字で記載のとおり、中東情勢による直接的な影響は限定的という認識でございます。今後、市場全体のサプライチェーンの影響等は注視してまいりたいと思っております。

二つ目の通期を見ていただきますと、前年同期比で売上高はプラス4%、営業利益は32億円増益、率に直しますとプラス5%という期初の想定でございます。純利益はプラス4%、ROEは20%を若干割りますけれども19.6%という想定になります。

株主還元の予想は、総還元性向75%、配当性向55%と中計目標から変えておりません。自己株取得は、この5月から来年3月までとして105億円の取得を予定しております。また配当につきましても、その表の上にごございますように、通期で212円。これは25年度比で10円増配と期初としては想定いたします。

## 2026年度業績予想サマリー 前年同期比



(億円)

	2025年度 実績					2026年度 業績予想					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
売上高	699	602	1,301	1,495	2,796	691	624	1,315	1,582	2,897	-8	+22	+14 (+1%)	+87 (+6%)	+101 (+4%)
営業利益	181	115	296	340	636	168	119	287	381	668	-13	+4	-9 (-3%)	+41 (+12%)	+32 (+5%)
営業外損益	0	2	2	21	23	14	-5	9	11	20	+14	-7	+7	-10	-3
為替差損益	-7	3	-4	10	6	0	0	0	0	0	+7	-3	+4	-10	-6
経常利益	181	117	298	361	659	182	114	296	392	688	+1	-3	-2 (-1%)	+31 (+9%)	+29 (+4%)
特別損益	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7	0	0	0	+7	+7
純利益 <sup>※1</sup>	139	89	228	269	497	138	86	224	291	515	-1	-3	-4 (-2%)	+22 (+8%)	+18 (+4%)
EBITDA <sup>※2</sup>	214	152	366	425	791	-	-	370	484	854	-	-	+4	+59	+63 (+8%)
EPS(円/株)	102.20	66.25	168.45	199.81	368.26	-	-	168.52	218.59	387.11	-	-	+0.07	+18.78	+18.85 (+5%)
配当(円/株)	-	-	70	132	202	-	-	70	142	212	-	-	0	+10	+10
配当性向(%)	-	-	-	-	54.9%	-	-	-	-	54.8%	-	-	-	-	-0.1pt
配当総額	-	-	94	178	272	-	-	93	188	281	-	-	-1	+10	+9
売上高営業利益率	25.9%	19.1%	22.8%	22.7%	22.7%	24.3%	19.1%	21.8%	24.1%	23.1%	-1.6pt	0.0pt	-1.0pt	+1.4pt	+0.4pt
ROE	-	-	-	-	20.3%	-	-	-	-	19.6%	-	-	-	-	-0.7pt
為替レート(円/ドル)	145	147	146	155	151	150	150	150	150	150	-	-	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

| 10

具体的な数字でございます。真ん中、ブルーの年間を見ていただきますと、上から2行目、営業利益でいうと668億円でございます。また純利益につきましては515億円と想定いたします。また為替レートでございますが、期初の前提としましてはドル円で150円と置いております。右に前年同期比とございますけども、一番右の年間の列を見ていただきますと、営業利益でプラス5%、純利益でプラス4%、EBITDAでプラス8%となっております。

## 2026年度業績予想サマリー 営業利益の増減分析

上期	2026年度 予想	2025年度 実績	前年同期比
		<b>287</b> 億円	<b>296</b> 億円
機能性材料	前年同期比 +4億円	半導体増収により増益	
農業化学品	前年同期比 -9億円	フルララネル・ライメイ・グレーシア減収に加え、固定費等増加により減益	
化学品	前年同期比 +4億円	基礎化学品増収により増益	
ヘルスケア	前年同期比 -2億円	ファインテック減収により減益	

通期	2026年度 予想	2025年度 実績	前年同期比
		<b>668</b> 億円	<b>636</b> 億円
機能性材料	前年同期比 +33億円	半導体増収により増益	
農業化学品	前年同期比 +10億円	ラウンドアップ・ライメイ増収により増益	
化学品	前年同期比 +2億円	基礎化学品増収により増益	
ヘルスケア	前年同期比 -3億円	固定費等増加により減益	

| 11

次に、セグメントごとの営業利益の増減分析ですが、まず上期につきましては前年対比でマイナス9億円という減益予想をしております。主なものとしては、上から二つ目の農業化学品でございまして、フルララネル、ライメイ、グレーシアの減収に加えまして固定費等の増加も想定いたしまして、9億円の減益という想定でございまして。

一方、通期につきましては下にございましており、プラス5%の32億円の増益を想定いたします。上から、機能性は半導体の増収を中心に前年同期比で33億円の増益。また農業化学品も、通期につきましては、そこに記載のとおり増収等を見込みまして10億円の増益でございまして。以下、化学品でプラス2億円、ヘルスケアではマイナス3億円という想定となります。

## 営業外損益・特別損益の内訳

(億円)

	2024年度 実績			2025年度 実績			前年同期比			2025年度 予想 <sup>※3</sup>	2026年度 予想		
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間		年間	上期	下期
受取利息・配当金	5.9	13.5	19.4	11.7	5.9	17.6	+5.8	-7.6	-1.8	23.7	10.6	6.3	16.9
持分法投資損益	1.4	9.2	10.6	1.6	13.5	15.1	+0.2	+4.3	+4.5	10.2	5.9	14.2	20.1
為替差損益 <sup>※1</sup>	-8.3	6.8	-1.5	-4.5	10.6	6.1	+3.8	+3.8	+7.6	-19.7	0.0	0.0	0.0
支払利息	-3.5	-3.0	-6.5	-2.2	-1.8	-4.0	+1.3	+1.2	+2.5	-5.1	-3.7	-4.0	-7.7
固定資産処分損他	0.5	-10.6	-10.1	-4.6	-6.7	-11.3	-5.1	+3.9	-1.2	-9.6	-3.8	-5.5	-9.3
<b>営業外損益</b>	<b>-4.0</b>	<b>15.9</b>	<b>11.9</b>	<b>2.0</b>	<b>21.5</b>	<b>23.5</b>	<b>+6.0</b>	<b>+5.6</b>	<b>+11.6</b>	<b>-0.5</b>	<b>9.0</b>	<b>11.0</b>	<b>20.0</b>
特別利益	8.2	45.1	53.3	0.0	0.0	0.0	-8.2	-45.1	-53.3	0.0	0.0	6.5	6.5
特別損失	0.0	-38.8	-38.8	0.0	0.0	0.0	0.0	+38.8	+38.8	0.0	0.0	0.0	0.0
<b>特別損益<sup>※2</sup></b>	<b>8.2</b>	<b>6.3</b>	<b>14.5</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>-8.2</b>	<b>-6.3</b>	<b>-14.5</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>6.5</b>	<b>6.5</b>

※1 為替レート(円/ドル): 24/3末 151.40、24/9末 142.82、25/3末 149.53、25/9末 148.89、26/3末 159.93

※2 2024年度年間実績:

特別利益+53.3億円(信託受益権受贈益32.6億円、有価証券売却益12.5億円、条件付対価受入益8.2億円)

特別損失-38.8億円(減損損失38.8億円)

※3 2025年度予想: 2025年11月発表

| 12

営業外損益と特別損益の内訳でございます。特に上から3行目の為替差損益、25年度の着地につきましては、年間通してプラス6億円という数字でございました。24年度との比較でいいますと、7.6億円の増益となります。なお今期につきましては期初でございますので、為替差損益はプラマイゼロと置いておるのが一番右の列に記載のとおりでございます。

また、特別損益につきましては、25年度は利益、損失ともございません。今期につきましては、特別利益で6.5億円程度、想定をしております。

## キャッシュ・フロー

2025年度のフリー・キャッシュ・フローは430億円となり、前年同期比14億円の増加

(億円)

	2024年度 実績	2025年度 実績	前年同期比	2025年度 予想 (2025年11月発表)	2026年度 予想
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>592</b>	<b>642</b>	<b>+50</b>	<b>619</b>	<b>580</b>
税金等調整前純利益	595	659	+64	590	695
特別損益(マイナスは益)	-15	0	+15	0	-7
減価償却費※1	144	155	+11	159	186
法人税等の支払	-126	-170	-44	-178	-168
運転資金増減他	-6	-2	+4	48	-126
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>-176</b>	<b>-212</b>	<b>-36</b>	<b>-218</b>	<b>-312</b>
設備投資※2	-176	-197	-21	-215	-270
投資有価証券購入・売却	-2	-2	0	-2	-3
その他	2	-13	-15	-1	-39
<b>フリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>416</b>	<b>430</b>	<b>+14</b>	<b>401</b>	<b>268</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>-357</b>	<b>-362</b>	<b>-5</b>	<b>-359</b>	<b>-209</b>
株主還元(配当)	-227	-236	-9	-236	-376
株主還元(自己株式取得)	-115	-105	+10	-105	
有利子負債増減	-15	-19	-4	-18	167
その他	0	-2	-2	0	0
現金及び現金同等物に係る換算差額	-11	14	+25	0	0
現金及び現金同等物の増減額	48	82	+34	42	59
現金及び現金同等物の残高	275	357	+82	317	416

※1 のれん償却費を含む ※2 無形資産を含む

| 13

キャッシュ・フローでございます。冒頭に記載のとおり、2025年度フリー・キャッシュ・フローは430億円となりました。前年同期比で若干の増加でございます。また今期の予想が一番右の列にございますが、特に営業活動のキャッシュ・フロー、それから投資活動につきましては前年対比では一定キャッシュ・アウトがあります。それぞれ特に設備投資につきましては、機能性、農業化学品を中心に従来以上に投資をしております。この結果、現預金としましては400億円強を確保、十分な手元を持つことになります。

## 貸借対照表

(億円)

	2025年3月末	2026年3月末	前期末比
<b>流動資産</b>	<b>2,104</b>	<b>2,220</b>	<b>+116</b>
現預金	275	357	+82
売上債権	891	972	+81
たな卸資産	801	766	-35
その他	137	125	-12
<b>固定資産</b>	<b>1,204</b>	<b>1,331</b>	<b>+127</b>
有形固定資産	724	770	+46
無形固定資産	135	128	-7
投資有価証券	244	325	+81
その他	101	108	+7
<b>資産合計</b>	<b>3,308</b>	<b>3,551</b>	<b>+243</b>

	2025年3月末	2026年3月末	前期末比
<b>負債</b>	<b>946</b>	<b>960</b>	<b>+14</b>
買入債務	199	226	+27
借入金、CP、社債	405	384	-21
その他	342	350	+8
<b>純資産</b>	<b>2,362</b>	<b>2,591</b>	<b>+229</b>
株主資本 <sup>※1</sup>	2,229	2,388	+159
その他有価証券評価差額金	70	115	+45
為替換算調整勘定	18	31	+13
非支配株主持分	29	38	+9
退職給付に係る調整累計額	16	19	+3
<b>負債純資産合計</b>	<b>3,308</b>	<b>3,551</b>	<b>+243</b>
<b>自己資本比率</b>	<b>70.5%</b>	<b>71.9%</b>	
<b>ネットD/Eレシオ<sup>※2</sup></b>	<b>0.06倍</b>	<b>0.01倍</b>	

### 投資有価証券(固定資産)の内訳

	2025年3月末	2026年3月末	前期末比	参考 2018年3月末
上場株式 <sup>※3</sup>	156	220	+64	300
(単体ベース保有銘柄数)	(24)	(24)	(0)	(55)
非上場株式	23	25	+2	17
関係会社株式	65	80	+15	68
合計	244	325	+81	385
純資産に占める 政策保有株式の割合 <sup>※4</sup>	6.9%	8.6%		17.0%

※1 株主資本増減 +159 = 純利益497 - 配当その他338 ※2 ネットD/Eレシオ = (借入金、CP、社債 - 現金預金) / 株主資本

※3 25/3末 156 + 取得0 + 評価差額64 = 26/3末 220 ※4 政策保有株式割合 = 政策保有株式(単体ベース、上場株 + 非上場株) / 純資産(連結ベース)

| 14

バランスシートでございます。左上の資産合計は 240 億円強増加しておりますが、売上債権、現預金等、増えております。売上債権につきましては売上が増えていまして、滞留日数的には 25 年 3 月末とほぼ変わっておりません。また、棚卸資産につきましては 35 億円の減少でございます。着実に棚卸資産の平準化が図られてきているのかなと思っております。また固定資産の下に投資有価証券がプラス 81 とございますが、これは左下に小さく※3 とありますが、26 年 3 月末の時価が大きく上昇しましたので、その評価差額分でこれだけ増えているということございまして、特に取得したということではございません。純資産に占める政策保有株式の割合も、一番下の表にございますとおり 10%を切っている水準でございます。自己資本比率は右下にございますように 71.9%で、引き続き 70%をキープしています。

## セグメント別 設備投資・減価償却費・研究開発費

設備投資および減価償却費は、コア成長事業における製造能力増強(主に海外)により近年増加  
研究開発費は、半導体を中心とした機能性材料と農業化学品にて増加基調 (億円)

	設備投資※1					減価償却費※2					研究開発費				
	2022	2023	2024	2025	2026 予想	2022	2023	2024	2025	2026 予想	2022	2023	2024	2025	2026 予想
機能性材料※3	90	91	44	94	137	46	60	65	62	86	76	82	83	103	128
(うち、NCK)※3	50	57	5	7	9	7	23	31	21	15	5	8	7	8	8
農業化学品※4	59	51	38	19	44	28	34	29	40	38	43	43	45	45	51
化学品※5	28	46	52	41	50	25	27	29	28	35	3	3	3	3	3
ヘルスケア	5	5	4	6	4	4	4	4	5	5	4	4	6	7	7
卸売	1	0	3	0	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0
その他	11	9	35	37	34	7	12	16	19	21	42	41	54	56	58
合計	194	202	176	197	270	110	138	144	155	186	168	173	191	214	247

※1 設備投資額: キャッシュ・フローベース

※2 減価償却法

国内 ディスプレイ材料・半導体材料: 4年定率(初年度50%を償却)、その他: 8年定率(初年度25%を償却)

海外 NCK: 6年定率(初年度33%を償却)、NBR: 10年定額

※3 設備投資 2022年 NCK半導体新工場(46億円)、2023年 NCK半導体新工場(47億円)、2025年 半導体研究設備・機器(39億円)、  
2026年予想 半導体研究設備・機器・製造設備(56億円)、無機 製造設備(15億円)、半導体サプライチェーン強化(14億円)

※4 設備投資 2022年 NBR 第1期工事(43億円)、2023年 小野田工場 製造設備(26億円)、2024年 小野田工場 製造設備(18億円)、  
2026年予想 NBR 製造設備(24億円)

減価償却費 2024年 一過性要因の11億円減少を含む

※5 設備投資 2024年 富山工場 製造設備(10億円)、2025年 富山工場 製造設備(8億円)、2026年予想 富山工場 硝酸プラントN<sub>2</sub>O排出削減工事(6億円)

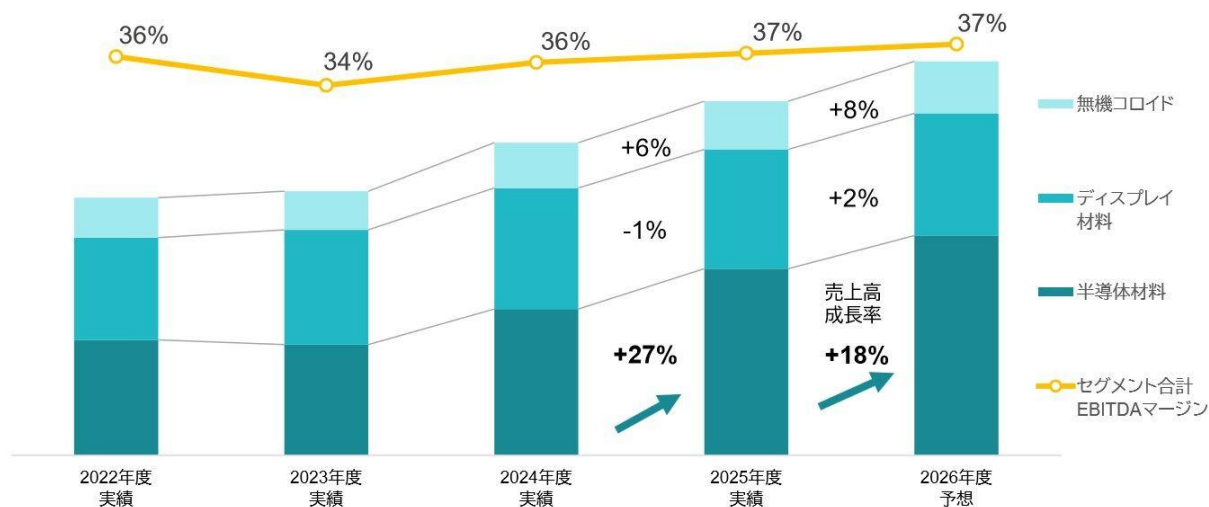
| 15

セグメント別の設備投資、減価償却費、研究開発費の今期も入れました5年分の推移でございます。セグメントごとにお示ししておりますが、特に設備投資・減価償却は、コア成長事業における、主として海外での製造能力増強などにより、近年増加しております。特に機能性と農業化学品につきましては、左下に※3と※4で細かく記載をしております。

また、研究開発費につきましても、半導体を中心とした機能性材料と農業化学品で増加基調であり、今期の予想は247億円、売上高に対する比率は8.5%という想定となります。

- 半導体材料は、2023年度は一時的な調整局面にあったが、市場の回復に伴い、2024年度以降は高い成長率を実現
- ディスプレイ材料は、2022年度を底として回復。キャッシュカウとして安定的な売上高を維持
- サブセグメント売上高構成では、成長ドライバーである半導体材料が、ディスプレイ材料を大きく上回る
- 2026年度は、半導体材料を中心に全てのサブセグメントにて、前年比増収を見込む

#### 機能性材料サブセグメント売上高、セグメント合計 EBITDAマージン\*推移



\* EBITDAマージン = (営業利益 + 減価償却費) / 売上高

| 18

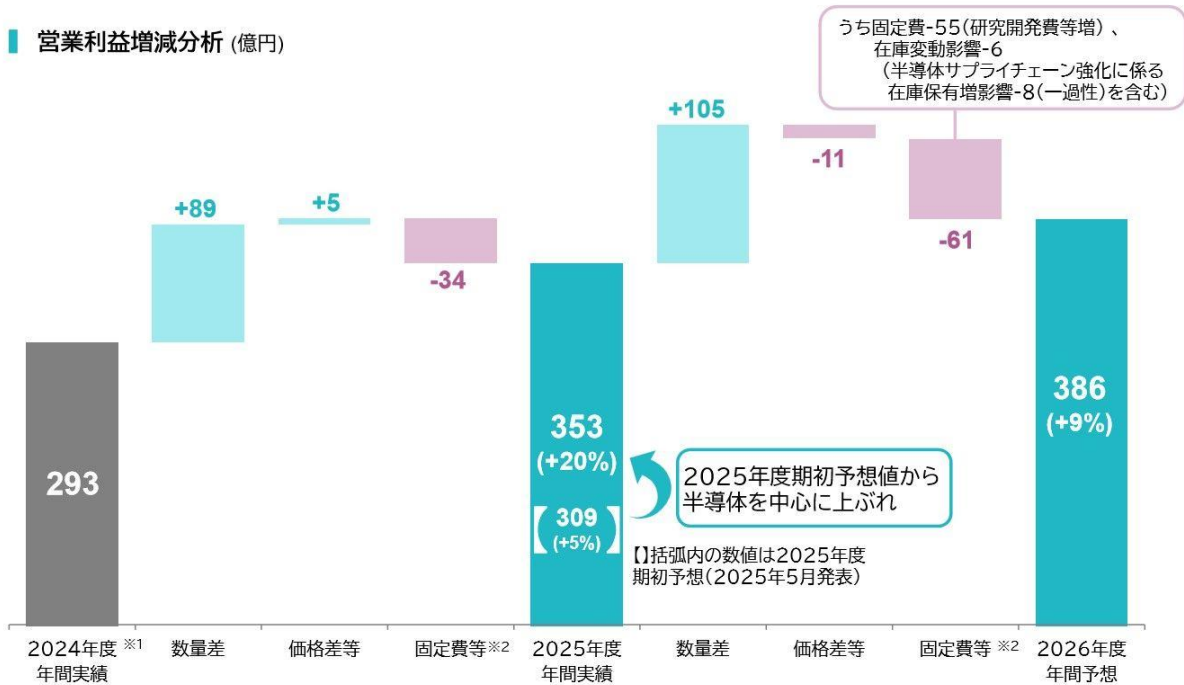
続きましてセグメントごとということで、まず機能性材料でございます。

下の棒グラフは、三つのサブセグメントの今期も入れました過去5年分の売上の増収率を示しております。半導体材料は、特に23年度に一時的な調整局面がありましたが、市場の回復に伴いまして24年度以降は高い成長率を実現しております。またディスプレイ材料も22年度を底として回復をしており、キャッシュカウとして安定的な売上高を維持しております。売上構成としては成長ドライバーである半導体材料がディスプレイ材料を大きく上回っており、ここには書いてございませんが、営業利益も26年度からは半導体がトップになる見込みでございます。いずれにしても半導体を中心に全てのサブセグメントで前年比増収を見込み、セグメント全体でも二桁成長を計画いたします。

黄色の折れ線は EBITDA マージンで、このセグメントとしては 40%近い高いマージンを実現していることも強調しておきたいと思っております。

- 2025年度は半導体の成長投資に伴う固定費増加も、半導体を中心に全てのサブセグメントでの数量増加が寄与し、大幅増収増益
- 2026年度は半導体の数量増加により、価格差や固定費等の減益要因が加わるも、増収増益を見込む

### 営業利益増減分析 (億円)



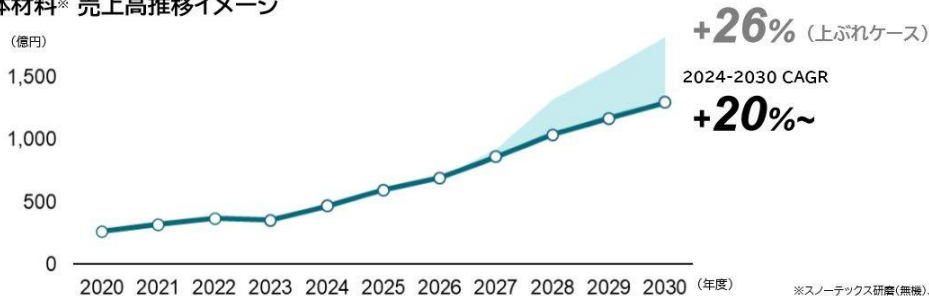
※1 2025年度より新方式セグメント別営業利益。2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p58参照)  
 ※2 固定費等には在庫変動影響を含む

| 19

機能性材料セグメントの営業利益の増減分析でございますが、25年度は半導体の成長投資に伴う固定費増加がありました。また、全てのサブセグメントで数量増加が寄与いたしまして、大幅な増収増益、20%の営業利益の増益となりました。25年の5月に期初として予想いたしましたのが5%の増益でございましたので、それをはるかに大きく上回った形になります。26年度につきましても、半導体の数量増加を中心に、価格差あるいは固定費の増加等ございますけれども、引き続き増収増益を見込むということで、期初としては9%の増益を想定いたします。

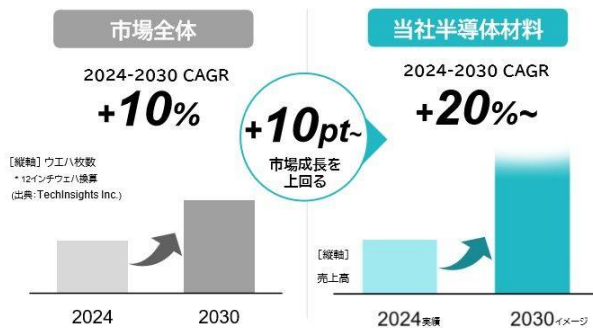
- 当社半導体材料の売上高成長率は+20%~(2024-2030年CAGR)と、市場成長率+10%を上回る見通し
- AIサーバー向け等の最先端・先端世代において、当社材料は大きく伸長。世代の移行に伴い、材料の使用層数は増加傾向

■ 当社半導体材料※ 売上高推移イメージ

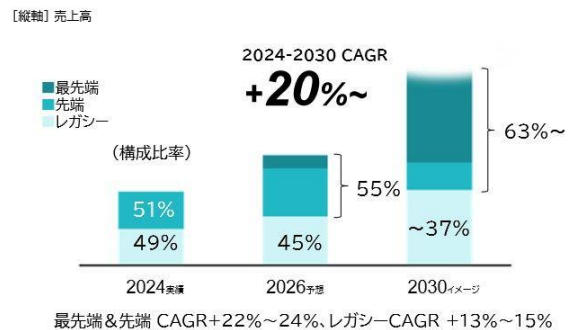


※スノーテックス研磨(無機)、高純度硫酸(化学品)は含まない

■ 市場成長を上回る当社半導体材料の売上成長



■ 当社半導体材料の売上高予想(世代別構成比率)



【最先端】Logic: 2nm以降、DRAM: 10nm台前半以降、NAND: 2025年時点の最先端 【先端】Logic: 7~3nm、DRAM: 10nm台中盤、NAND: 128層以上、最先端未満 【レガシー】左記以外

近年、非常に伸びております当社の半導体材料の成長予想を2030年までお示ししております。あくまでもイメージですが、24年から30年までの成長率としてはCAGRで20%超という売上高の成長を見込んでおります。市場成長率は各種データから大体10%と把握しておりますので、そこを大きくアウトパフォームする想定となります。AIサーバー向け等の最先端、先端世代において当社の材料が大きく伸長するということをございまして、上ぶれケースも書いておりますが、当社としてはここに大変自信を深めているということになります。

- 半導体材料は、2025年度年間で27%増収、2026年度年間で18%増収予想
- ディ스플레이材料は、2025年度年間で1%減収、2026年度年間で2%増収予想
- 無機コロイドは、2025年度年間で6%増収、2026年度年間で8%増収予想

主要製品	2025年度 実績					2026年度 予想				
	前年同期比					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
半導体材料合計	+18%	+32%	+40%	+36%	+27%	+30%	+17%	+23%	+14%	+18%
ARC®	+11%	+31%	+22%	+26%	+19%	+21%	+10%	+15%	+8%	+11%
多層材料	+34%	+39%	+84%	+62%	+49%	+53%	+23%	+37%	+12%	+22%
EUV材料※1	+14%	+36%	+29%	+33%	+23%	+34%	+40%	+37%	+42%	+40%
ディスプレイ材料合計	+7%	-10%	-6%	-8%	-1%	-2%	-5%	-4%	+9%	+2%
無機コロイド合計	+8%	+9%	+1%	+5%	+6%	+9%	+3%	+6%	+11%	+8%
機能性材料セグメント合計	+12%	+12%	+17%	+15%	+13%	+14%	+7%	+11%	+12%	+11%

※1 EUV材料: EUV向け下層膜とSi-HMの合計

主要製品の売上高成長率ですが、半導体は25年度27%の増収、26年度も18%の増収を期初としては想定しております。ディスプレイは25年度では1%の減収でしたが、26年度はYoYでプラス2%と想定しております。うち、光IPSは実はかなり伸びており、25年度、26年度ともにYoYでプラス6%の売上成長を見込んでおります。無機も25年度で6%、26年度は8%の増収予想でございます。

(億円)

	2024年度 実績					2025年度 実績					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	486	256	259	515	1,001	544	286	304	590	1,134	+58	+30	+45	+75	+133
営業利益	145	80	68	148	293	174	94	85	179	353	+29	+14	+17	+31	+60

固定費等【下期】増加24億円【年間】増加34億円

半 導 体	<b>【下期】【年間】増収・増益</b>	
	先端世代を中心に市場好調、顧客稼働増	
	ARC®	【下期】【年間】増収
	多層材料	【下期】【年間】増収
	EUV材料	【下期】【年間】増収
	三次元実装材料	【下期】横ばい【年間】増収
	固定費等	【下期】増加21億円【年間】増加29億円
デ ィ ス プ レ ィ	<b>【下期】減収・減益【年間】減収・利益横ばい</b>	
	光IPS	【下期】横ばい 【年間】増収
	ラビング IPS	【下期】【年間】減収
	VA	【下期】【年間】減収
コ ロ イ ド	<b>【下期】【年間】増収・増益</b>	
	【下期】【年間】スノーテックス(研磨剤)、オイル&ガス増収	

※ 2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p58参照)

| 22

25年度実績の前年同期比のサブセグメントごとのコメントをしております。年間で60億円の増益になったわけですが、固定費につきましては表の下に小さく書いてありますが、年間としては34億円の増加となっております。そのうちの大半が半導体になりまして、左下に記載のとおりでございます。

(億円)

	2025年度 実績					2026年度 予想					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
売上高	259	285	544	590	1,134	296	306	602	659	1,261	+37	+21	+58	+69	+127
営業利益	82	92	174	179	353	83	95	178	208	386	+1	+3	+4	+29	+33

固定費等【上期】増加40億円(うち固定費30億円、在庫変動影響10億円)【下期】増加21億円(うち固定費25億円、在庫変動影響4億円(増益))  
【年間】増加61億円(うち固定費55億円、在庫変動影響6億円)

## 【年間】増収・増益

先端世代を中心に増収、顧客稼働増

ARC® 【年間】増収

多層材料 【年間】増収

EUV材料 【年間】増収

三次元実装材料 【年間】増収

固定費等【上期】増加33億円【下期】増加13億円

【年間】増加46億円  
(うち固定費39億円(研究開発費等増)、  
在庫変動影響7億円  
(半導体サプライチェーン強化に係る  
在庫保有増影響8億円(一過性)を含む))

半  
導  
体

## 【年間】増収・増益

光IPS 【年間】増収(下期に顧客生産能力増強)

ラビング  
IPS 【年間】減収

VA 【年間】減収

固定費等【年間】増加3億円

デ  
ィ  
ス  
プ  
レ  
ィ

## 【年間】増収・減益

【年間】オイル&amp;ガス材料、スノーテックス(一般用途)増収

固定費等【年間】増加12億円

無  
機  
コ  
ロ  
ィ  
ド

| 23

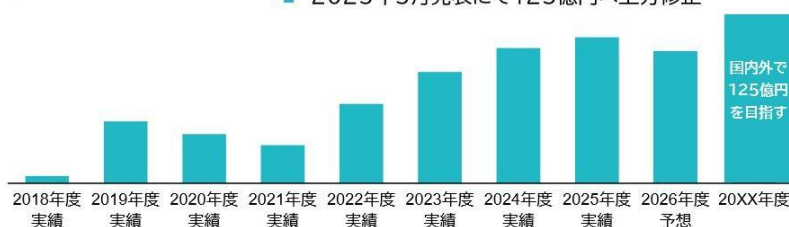
こちらは今期の予想でございます、33億円の増益を予想しております。固定費は61億円の増加を見込んでおりますが、それをこなし33億円の増益を想定いたします。固定費につきましては半導体46億円、年間増加と書いてありますが、それ以外にも右下にございますように無機、ディスプレイでもいくつかの設備投資等ございまして、そういったものによる固定費増を今回は計画しております。

■ 2025年度年間で12%増収、2026年度年間で1%増収予想

主要製品名 (農業:2025年度売上高順)	種類	2025年度 実績					2026年度 予想			
		前年同期比					前年同期比			
		上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	下期	年間	
農薬	ラウンドアップ※1	除草剤	+2%	+29%	0%	+3%	+3%	+7%	+5%	+6%
	アルテア	除草剤	+51%	+43%	+1%	+7%	+17%	-18%	-5%	-9%
	グレースシア	殺虫剤	-17%	+76%	+15%	+41%	+8%	-29%	+5%	-10%
	ライメイ	殺菌剤	+49%	+84%	+32%	+44%	+46%	-37%	+40%	+5%
	タルガ	除草剤	+45%	-68%	-14%	-31%	-3%	-3%	+17%	+6%
	パーミット	除草剤	0%	+31%	-30%	+2%	+1%	+42%	-15%	+1%
	ダイセン	殺菌剤	+25%	+52%	-4%	+7%	+13%	-6%	-1%	-3%
	ベルダー※2	除草剤	-	-	+335%	+379%	+482%	+29%	+48%	+45%
動物薬	フルララネル	動物薬	0%	+30%	+22%	+26%	+10%	-10%	+14%	0%
セグメント合計※3		-	+8%	+32%	+7%	+15%	+12%	-7%	+7%	+1%

■ グレースシア売上高

- 当初のピーク時売上高目標100億円を2024年度に達成
- 2025年5月発表にて125億円へ上方修正



参考

農業化学品事業説明会資料☑  
(2026年1月13日発表)

ラウンドアップの現状説明会資料☑  
(2020年1月22日発表)

※1 ラウンドアップALは、2025年度年間実績のラウンドアップ売上高全体の21%を占める  
 ※2 ベルダーは、2024年度4Qに上市  
 ※3 セグメント合計は値引きを含む

続きまして農業化学品でございます。冒頭でございますように25年度は年間で12%の増収となっております。一方、26年度につきましては1%の増収を期初としては想定いたします。それぞれ非常に細かい表で恐縮ですが、特に農薬につきましては25年度、二桁成長のアルテア、ライメイ、ダイセン、それからベルダーは出たばかりではありますが、かなり好評いただきまして増収となりました。

一方、26年度は一番右でございますとおり、ラウンドアップ等が成長いたしますが、アルテアあるいはグレースシアといったところは少しマイナスの予算を想定いたします。また、ベルダーはプラス45%、一方、フルララネルにつきましては期初としてはプラマイゼロとしております。

(億円)

	2024年度 実績					2025年度 実績					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	392	146	324	470	862	423	192	347	539	962	+31	+46	+23	+69	+100
営業利益	144	38	77	115	259	120	50	90	140	260	-24	+12	+13	+25	+1

固定費等 【下期】増加13億円、うち固定費7億円、在庫変動影響6億円  
 【年間】増加42億円、うち固定費23億円(前期に一過性要因の費用減少が発生した反動(14億円)、今期新剤開発に伴う研究開発費増)、在庫変動影響19億円(原価低減による在庫評価損、今期出荷増に伴う繰越固定費増)

【下期】増収・増益

ラウンドアップ	増収(ML:流通在庫調整の進展により数量増)	ライメイ	増収(輸出:欧州での需要増)
アルテア	増収(国内:コメ価格高騰に伴う需要増)	ベルダー	増収(国内:24年度4Qから上市、25年度拡販)
グレースシア	増収(輸出:アジア等での拡販)	フルララネル	増収(原薬出荷:増収 ロイヤリティ:一部特許料率減により減収)

【年間】増収・利益横ばい

ラウンドアップ	増収(ML:流通在庫調整の進展により数量増)	ライメイ	増収(輸出:欧州での需要増)
アルテア	増収(国内:コメ価格高騰に伴う需要増)	ベルダー	増収(国内:24年度4Qから上市、25年度拡販)
グレースシア	増収(国内:拡販)	フルララネル	増収(原薬出荷:24年度から一部出荷後ろ倒しにより増収 ロイヤリティ:一部特許料率減により減収)

※ 2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p58参照)

25年度の前年同期比の実績でございますが、営業利益としては1億円の増益にとどりましたが、固定費が年間で42億円増加しております。うち23億円は純粋な固定費の増加になりますが、そのうち14億円は24年度に一過性で費用減少があった反動でございますが、実質としては23億円よりはもっと少ない形での固定費の増加でございます。一方で在庫変動影響もかなり出ておまして、19億円の費用増でございます。ここは、特に24年度上期にかなり原価が上昇しましたが、25年度は逆に原価低減という影響が出まして、在庫でマイナスが出たことに加えまして、25年度は非常に出荷が好調ございましたので、繰越固定費等の増加もございました。

動物薬フルララネルにつきましては、年間で10%増でした。原薬の出荷につきましては前から申し上げておりますように、24年度から一部25年度の1Qに出荷の後ろ倒しがあったこともこの増加の背景としてはございます。一方、ロイヤリティにつきましては一部減収ございましたが、トータルとしては増収10%という着地でございます。

(億円)

	2025年度 実績					2026年度 予想					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
売上高	266	157	423	539	962	233	159	392	580	972	-33	+2	-31	+41	+10
営業利益	86	34	120	140	260	72	39	111	159	270	-14	+5	-9	+19	+10

【年間】増収・増益

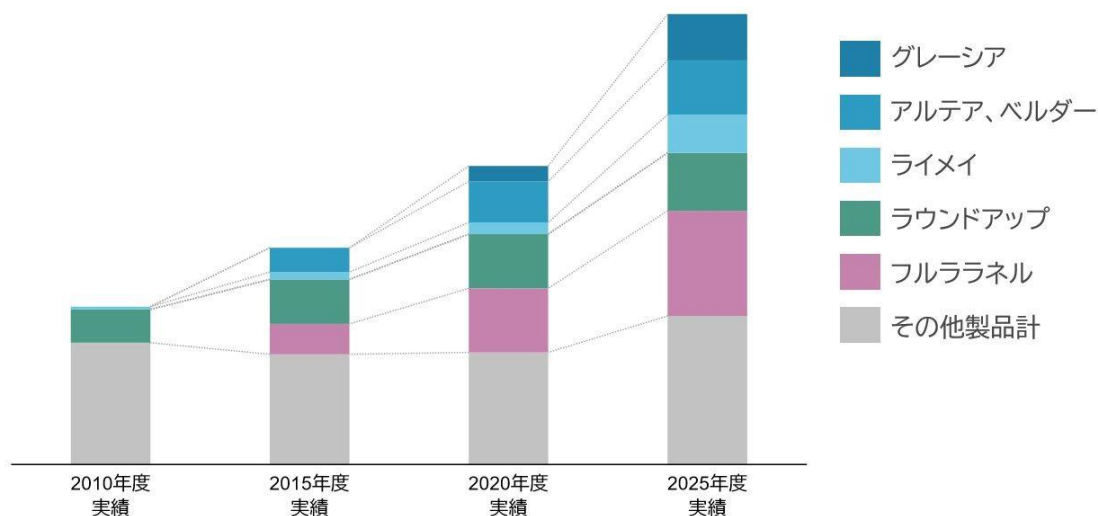
- ラウンドアップ 増収(ML:流通在庫調整の完了により数量増、AL:数量増)
- アルテア、ベルダー 横ばい(国内:アルテア減収もベルダー増収によりほぼ横ばい)
- グレーシア 減収(輸出:インドでの流通在庫影響)
- ライメイ 増収(輸出:欧州での需要増)
- フルララネル 横ばい(原薬出荷:増収、ロイヤリティ:減収)

| 27

26年度は、次の27ページでございます。営業利益としては10億円の増益を計画いたします。この期は、固定費等の増加についてはそれほど大きなものはございません。従いまして売上高の増収10億円に対して営業利益の増益が10億円となっております。フルララネルは先ほど申し上げましたように横ばいで、原薬出荷は記載のとおり増収でございますが、ロイヤリティは若干の減収でございます。ネットとしてはプラマイゼロと想定しております。

- 継続的に新剤・買収剤を市場投入
- 販売地域拡大・混合剤開発・用途開発による持続的成長

■ 2010～2025年度 製品ポートフォリオの長期売上高推移※1



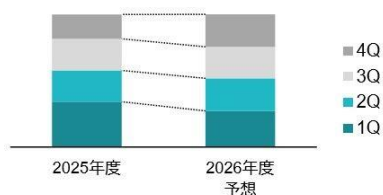
※1 値引きを含む

農業化学品については、もう少し長期で見た売上高の推移を主要な製品ごとにお示ししております。2010年度から5年おきで記載をしておりますけれども、冒頭に記載のとおり継続的に新剤、あるいは買収剤を市場に投入いたしまして、販売地域の拡大、あるいは混合剤の用途開発といったようなことで持続的に成長していることがお分かりいただけると思います。

### ■ 当社のフルララネル売上高の構成

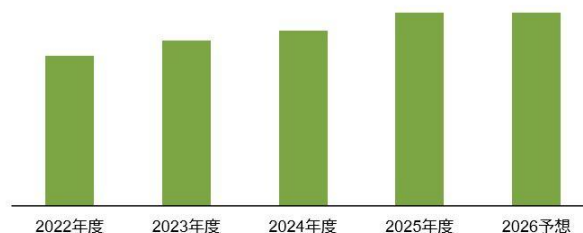
MAH<sup>※1</sup>社へのフルララネル原薬販売 + MAH社からのランニングロイヤリティ(RR)

### ■ 2025～2026年度 四半期別売上高推移 (RR収入含む)



・MAH社の需要トレンドにより、当社のフルララネル売上高は上期が厚くなる傾向にある

### ■ 2022～2026年度 売上高推移 (RR収入含む)



・2025年度実績は前年比+10%、うち原薬販売は2024年度からの出荷後ろ倒しもあり+37%。実績為替レートは151円/ドル  
 ・2026年度予想は前年比で横ばい。想定為替レートは150円/ドル

### ■ ブラバクト<sup>®</sup>の拡大に向けたMAH社の開発状況

フルララネルを有効成分とする新製品開発や、既存製品の登録国数の拡大をMAH社が実施中

※1 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門、MSD Animal Health 社の略称

それから動物薬につきましては、左の棒グラフがございましたように、通常は上期が厚いですが、26年度はほぼイーブンの想定になります。また26年度予想につきましても、この右の緑の棒グラフの下のコメントにございますように、為替レート想定150円で置いております。これを前提とした形での前期比横ばいというような売上を想定してございます。

2025年度実績 前年同期比

(億円)

	2024年度 実績					2025年度 実績					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	179	102	97	199	378	188	101	104	205	393	+9	-1	+7	+6	+15
ファインケミカル	63	34	32	66	129	68	32	37	69	137	+5	-2	+5	+3	+8
基礎化学品	116	68	65	133	249	120	69	67	136	256	+4	+1	+2	+3	+7
営業利益	-3	5	2	7	4	-1	3	9	12	11	+2	-2	+7	+5	+7

※ 2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み (p58参照)

【下期】増収・増益

ファインケミカルは、テピック増収に加え、固定費等減により増益  
 基礎化学品は、高純度硫酸(半導体需要増)増収により増益

【年間】増収・増益

ファインケミカルは、ファインオキシコールと環境化学品増収に加え、固定費等減により増益  
 基礎化学品は、高純度硫酸(半導体需要増)増収も、固定費等増加により利益横ばい

2026年度予想 前年同期比

(億円)

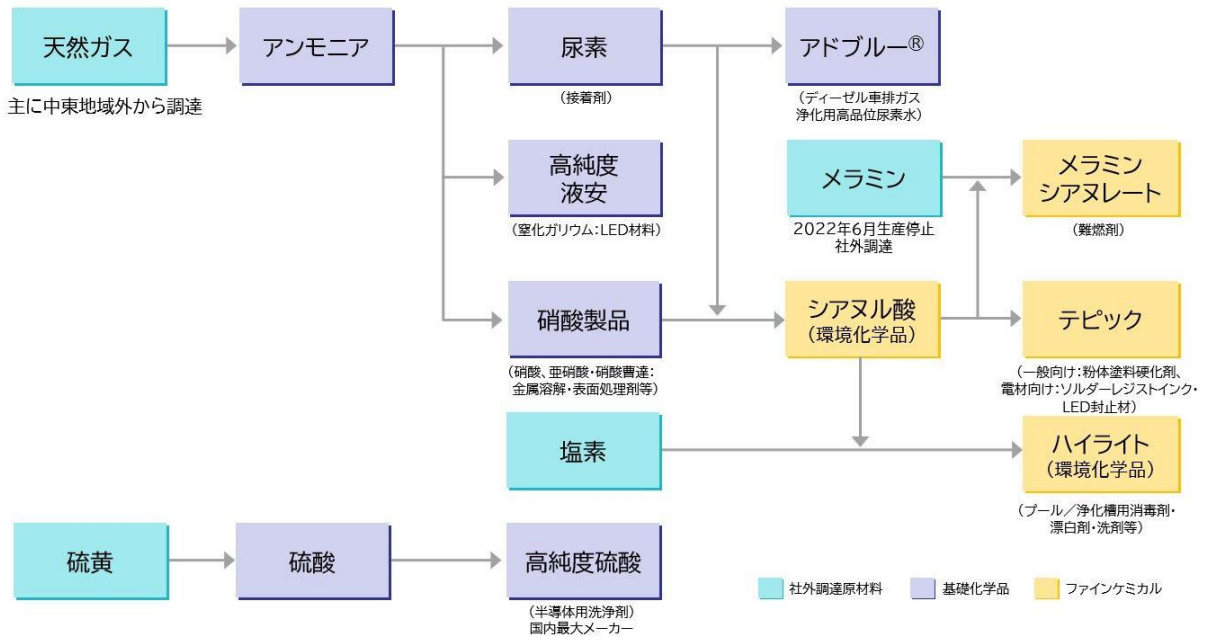
	2025年度 実績					2026年度 予想					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
売上高	93	95	188	205	393	99	97	196	218	414	+6	+2	+8	+13	+21
ファインケミカル	34	34	68	69	137	35	33	68	72	140	+1	-1	0	+3	+3
基礎化学品	59	61	120	136	256	64	64	128	146	274	+5	+3	+8	+10	+18
営業利益	7	-8	-1	12	11	10	-7	3	10	13	+3	+1	+4	-2	+2

【年間】増収・増益

ファインケミカルは、環境化学品増収も、固定費等増加により利益横ばい  
 基礎化学品は、固定費等増加も、高純度硫酸(半導体需要増)と硝酸製品増収により増益

続きまして化学品でございます。上が25年度の前年同期比、下の表が今期の予想の前年同期比になります。いずれも年間ベースで増収増益を想定いたします。25年度につきましては、ファインケミカルはファインオキシコールや環境化学品の増収に加えまして、減損による固定費の負担減も加わり、増益となりました。また基礎化学品も半導体向けの高純度硫酸が二桁増収となり、増益に寄与しています。26年度も概ね同じような傾向でございまして、引き続き営業利益率5%を目指して頑張っております。

- 主要製品は、アンモニア系と硫酸系
- 2025年度アンモニア国内生産能力シェアはわずか11%
- 規模を追わず、高純度硫酸などの高付加価値製品へ注力



なお、製品フローですが、ここでは左上の天然ガスの下に少しコメントしておりますが、当社の場合には主として中東地域外からの天然ガスを調達し、アンモニア以下の製品を作っております、と申し添えておきます。

## 2025年度実績 前年同期比

(億円)

	2024年度 実績					2025年度 実績					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	33	11	16	27	60	28	12	12	24	52	-5	+1	-4	-3	-8
営業利益	13	4	2	6	19	7	4	3	7	14	-6	0	+1	+1	-5

※ 2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p58参照)

【年間】減収・減益 ファインテック減収により減益

## 2026年度予想 前年同期比

(億円)

	2025年度 実績					2026年度 予想					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
売上高	16	12	28	24	52	18	7	25	30	55	+2	-5	-3	+6	+3
営業利益	5	2	7	7	14	7	-2	5	6	11	+2	-4	-2	-1	-3

【年間】増収・減益 ファインテック増収も、固定費等増加により減益

| 37

最後にヘルスケアでございます。25年度は少し減収減益、また26年度は増収ではありますが減益でございます。おそらくこの26年が利益的にボトムなのかなという感じでございます。

## ESGへの取り組み

E (環境)	2021年4月	ダイバーシティステートメントおよびダイバーシティビジョンを設定
	2022年5月	2050年にカーボンニュートラルへ温室効果ガス(GHG)排出削減長期目標を設定(詳細はp45参照)
	2022年6月	メラミン停止によるGHG削減(26千トン、2018年度実績の約7%に相当)
	2022年6月	気候変動対策委員会設置
	2025年9月	「 <a href="#">統合レポート2025</a> 」を発行
	2025年9月	環境省「自然共生サイト」認定(日産ビオパーク西本郷(富山工場)、小野田工場ビオトープ)
G (ガバナンス)	2019年4月	指名・報酬諮問委員会設置(取締役会の任意の諮問機関)
	2019年6月	取締役等を対象に業績連動型株式報酬制度導入(株式給付信託)
	2025年6月	女性取締役(社外)2名選任(再任)(取締役は計10名、うち社外4名) 女性監査役(社外)1名選任(新任)(監査役は計4名、うち社外3名)
	2025年12月	「 <a href="#">コーポレートガバナンス報告書</a> 」を更新
	2026年4月	役員報酬体系の一部改定(株式報酬比率の引き上げ) 変更前:基本報酬65%、業績報酬28%、株式報酬7% 変更後:基本報酬50%、業績報酬30%、株式報酬20%(ROE指標及びTSR指標に連動) ※業績報酬の連動割合(利益連動部分90%、ESG連動部分10%)に変更なし

| 42

最後でございますが、ESG のガバナンスの一番下、この4月に改定開示しておりますが、役員報酬体系につきまして一部改定を想定しております。具体的には株式報酬比率の引き上げで、変更後を見ていただきますと、株式報酬の比率を上げたことと、中身として、もともとROE指標が入っていましたが、それに加えてTSRの指標もここに入れる形で想定しております。私から説明は以上でございます。

## 質疑応答

---

### <質問者 1>

**Q**：2025 年度 4Q の半導体材料が非常に強い点について伺います。21 ページでは製品別の動きが示されていますが、多層材料が大きく伸長している背景を教えてください。AI サーバー向け需要拡大というお話もありましたけれども、中国顧客での特需やラッシュオーダーのような一時的な要因が含まれていないかについても伺いたいです。また、足元の需要動向や地域別の特徴、さらに 2026 年度 1Q に向けた見方についてもご説明をお願いいたします。

**A**：2025 年度 4Q は全体として各地域・各材料で大きく成長しているのですが、その中でも多層材料に関しましては、特に中国ではレガシー中心にシェアが高いのもあって、その辺りの影響はあります。特に 4Q では、ある特定のお客様でのシェアが少し上がったといったところも寄与しまして、3Q 等に比較してやや高めに出ているところがございます。2026 年度に関しましても、この AI 関連を中心とした市場拡大は継続する見通しで、この傾向は当面続くかと見ております。

**Q**：農業化学品について、2026 年度の国内外の市場環境に関する見方を教えてください。国内ではコメ市況の落ち着き、海外では地域別の需要動向や在庫調整の影響があると認識しています。また、肥料の市況が上がっている影響をどう見られているかも伺いたいです。加えて、持分法投資損益が 2025 年度 4Q で改善し、2026 年度も増益見通しとなっている背景について、肥料関連の影響も含めてご説明ください。

**A**：まず国内市場ですが、2025 年度は先ほどお話があった通り、米価の上昇が大きく寄与しておりました。足元では米価は下落トレンドにはなってきておりますが、2026 年度の作付面積は前年並みで推移すると考えております。当社の主力の水稻除草剤についても、今後は落ち着いた動きとなると見ていますが、足元この 4 月では、引き続き活発な形で動いております。中東情勢の影響などで一部前倒し的な購入も含まれているかもしれませんが、好調な形で当社の場合は動いていません。

海外市場につきましては、肥料価格やエネルギーコストの上昇が見込まれるなか、農薬価格への転嫁や需要動向については不透明な状態が続くのではないかと見ております。ただ、市場自体は若干回復の兆しも見られると考えておまして、当社としましては、海外子会社による販売普及活動の強化によって事業拡大を図っていきます。

持分法についてですが、2025年度4Qから一部の会社が新たに持分法の対象となっているため、その影響による増加と考えております。したがって、肥料市況の上昇によるものではなく、対象会社の増加による影響です。

## <質問者2>

**Q:** 20ページにもお示しの通り、御社の半導体材料の売上が明らかに市場成長をアウトパフォームしてきていますが、それはリソグラフィ工程数が先端半導体向けで増えてきていることが主因なのでしょうか。特に EUV 関連材料がアウトパフォームの主要因となっているのか、背景をご説明いただけます。

**A:** ご指摘のとおり、先端プロセスにおける材料使用回数の増加が寄与しています。プロセスの多様化に伴い工程数が増えることでの数量増がございます。加えて、先端向けの高単価材料の伸長もあり、そこが相まってアウトパフォームをしています。また、実装材料もポテンシャルが高く、これから非常に伸びていくと想定しております、この部分もアウトパフォームとして寄与すると考えております。

**Q:** EUV 材料について、2026年度は大幅な増収が見込まれていますが、どの用途、どの地域が成長を牽引するのでしょうか。

**A:** EUV 材料の伸びについては、韓国のメモリ向けが大きいのと、台湾のファウンドリーも先端が伸びておりますのでここも寄与しております。ただ、やはり韓国向けが寄与としては大きいかなという状況でございます。

**Q:** 2026年度の半導体の固定費増として、半導体サプライチェーン強化に関わる在庫保有増影響8億円とありますが、こちらは当初2025年度に想定していたものが後ろ倒しされ、2026年度に一過性で影響が出るという理解でよろしいでしょうか。

**A:** おっしゃる通りでございます、2025年度下期に想定していたコストですが、時期がずれて、26年度上期に計上される見込みです。

**Q:** 化学品事業について、アンモニアや硫酸およびその誘導品が主力と理解していますが、足元ではこれらの国際市況が上昇しています。御社の販売価格は市況ほどの変動性はないものの、こうした環境であればある程度の追い風になるのではないかと考えられますが、2026年度の業績予想にはそのようなプラス影響は織り込まれているのでしょうか。原料である天然ガス価格も上昇して

いる一方で、製品価格の引き上げが進めば、結果的に損益面でプラスに作用する可能性があるのかと思われませんが、その点についてご見解を教えてください。

**A：**現時点の業績予想には、アンモニアや硫酸の市況上昇による販売価格の上ぶれは織り込んでおりません。一方で、原料である天然ガス価格は足元で大きく上昇しており、これは自助努力で吸収できる水準を超えています。そのため、今後は適切なタイミングでお客様の理解を得ながら、販売価格への反映を進めていく方針です。原料高と製品価格の上昇の双方を踏まえた場合、結果として損益面で明確なプラス効果が出るかどうかは現時点では見通しにくい状況です。全体としては、大きな利益押し上げ要因にはならないと考えています。

### <質問者 3>

**Q：**20 ページの半導体材料の市場成長を上回る見通しについて、追加で教えてください。御社は近年、生産能力や人員などのリソースをかなり拡充されてきたと認識しています。その結果として、これまでアプローチできていなかった顧客に対して新たにシェアを獲得している可能性もあるのではないかと考えています。先ほど、特定顧客でシェアが取れたというコメントもありましたが、全体としてシェア上昇が寄与している側面はあるのかを補足いただけますでしょうか。

**A：**シェアの観点では、リソグラフィ材料については、アジアでは一定レベルの高いシェアを既に有しています。その上で、中国エリアでは、まだ競争環境の変化もありまして、ここが結構な伸びしろでもあるのですが、そこでのシェアを取っていくというのは寄与としては大きな部分かと思っております。

**Q：**半導体材料の売上成長率の上ぶれケースとして、26%の CAGR と示されていますが、どのようなシナリオを想定されているか教えてください。

**A：**上ぶれケースについて、20 ページのグラフを見ていただくと、2028 年度ぐらいからぐっと上がっているような形になっております。ここはリソグラフィ材料全体の伸びに加えて、実装材料のポテンシャルを織り込んでいます。特に、2028 年ぐらいから HBM の 4E といった世代が市場に投入されるタイミングでございますが、それに対応する当社材料の採用拡大を通じて、事業を大きく伸ばしていきたいということを示しています。

**Q：**一方で、御社は中国向けの比率が高いと思ひまして、中国現地メーカーによる内製化や競争激化といったことによる下ぶれリスクについては、どの程度懸念すべきでしょうか。

**A：**確かに中国の現地メーカーの台頭はございますが、まだ性能的に当社のシェアが高いところは当面キープできるかなとは考えております。品質の強化をしっかりとやりながら、シェアを十分キープできるように進めているところでございます。

#### <質問者 4>

**Q：**ディスプレイ材料について、2026 年度は増収見通しとなっています。一般的には液晶スマートフォンやノート PC の生産台数は落ちる傾向に見られている方が多いかと思えますけれども、御社のディスプレイ材料が 2026 年度に伸びる背景について補足いただけないでしょうか。

**A：**2026 年度の増収見通しの主因は、主力材料である光 IPS が今後も順調に伸びていくという前提でございます。特に、下期に中国の主要顧客複数社において設備増強がございまして。また、メモリ価格高騰の影響といったところは注意深く見てはおりますが、現時点では当社材料の引き合いが大きく落ち込んでいる状況ではございません。スマートフォンに関しても、当社材料の出荷ベースで考えると特に落ち込んでいないのが実情でございまして。この背景としては、中国を中心としたリペア（修理・交換）市場が需要を下支えしている可能性があるのではないかと考えております。

**Q：**光 IPS の浸透率上昇について、どの用途で特に伸びが見られているのでしょうか。また、2026 年度下期の顧客の生産能力増強がこういった用途で見込まれているのか教えてください。

**A：**光 IPS の用途別の浸透率に関しては、スマートフォンはかなり頭打ちの状況でございまして。IT 機種（タブレット、ノート PC、モニター）は順調に伸びてきております。特に 2025 年度に大きく伸びたのはモニター向けであり、こちらは面積も大きいことから、配向材の使用量増加にも一定のインパクトを与えたといったところになります。

また、2026 年度下期の顧客の能力増強に関しては、基本的に G8.5 世代以上のラインが複数立ち上がるという情報を得ております。これらのラインでは、基本的に光 IPS が採用されることになり、用途としては IT 向け、中でもモニターが多く、また車載向けも伸びると見えています。

#### <質問者 5>

**Q：**農業化学品のグレースシアについて、自社開発品で注目している製品のひとつですが、2025 年度は一桁%の成長に留まり、2026 年度は減収予想となっています。これを踏まえると、ターゲット市場はすでにある程度取り切った状況なのか、それとももう一段成長の余地がある製品と見ていいのか、現状と成長ポテンシャルを教えてください。

**A：**グレースシアは、すでに売上高 100 億円超の製品となっておりますので、2025 年度の成長率では一桁%の伸びですが、金額ベースでは引き続き大きな伸びを示しています。国内では、2025 年度は上期に高温の影響で害虫の発生が多く需要が拡大しました。一方で海外では、一部で在庫調整の影響が出ており、伸びがやや鈍化しています。2026 年度は、引き続きこの在庫調整の影響に加え、国内で競合剤が出てくることも踏まえて、慎重に見ている側面がございます。

グレースシアの中長期成長については、当初売上 100 億円を目指していましたが、現在は 125 億円規模まで上方修正しています。海外での新規販売チャネル拡大や登録国の拡大を通じて販売を伸ばしていく計画であり、依然として成長余地のある製品であると考えております。

#### <質問者 6>

**Q：**15 ページ記載の設備投資について、2026 年度予想で、半導体研究設備・機器・製造設備 56 億円とございますが、この詳細を教えてください。

**A：**例えば、いろんな機器を順次、更新をしている、あるいは能力増強のために新しく入れているというところが数億円から十数億円のもの積み上がった形になっています。

**Q：**それらの投資は、EUV 材料や実装材料といった、より高い技術要求に対応するための設備投資という認識でよろしいでしょうか。また、これらの投資は、どの拠点で実施されるのでしょうか。

**A：**はい。それが主たる内容となっています。加えて、逐次的な設備更新、評価機器更新はどうしても必要なので、そういった要素も含まれています。拠点については、主に富山での投資とご理解ください。

**Q：**無機製造設備の投資については、コロイド関連の設備能力増強と理解していますが、こちら拠点および内容を教えてください。

**A：**こちらは袖ヶ浦工場での設備増強を予定しております。能力増強というよりは、ある製品を新規に立ち上げるための設備投資であり、全体の生産能力全体が大きく増加するものではありません。

**Q：**半導体サプライチェーン強化 14 億円の設備投資についても、具体的な内容を教えてください。

**A**：詳細についてはお相手との関係もありお答えしにくい部分がありますが、アジアの特定地域向けの商流の変更に伴う対応となります。今回の施策は、当社の販路に関するもので、サプライチェーン強化につながる取り組みと位置づけています。

以上